

オガタマノキ

●所在地／双海町高野川 高野川神社 ●所有者／高野川神社

モクレン科。^{かんしゅう きょうこう}幹周は胸高280cm、^{じゅこう}樹高23m、推定樹齡200年以上。この社^{しゃ}叢^{そう}には、ほかに幹周190cmなど3本のオガタマノキがある。

オガタマノキは西日本の温暖な地方に自生する常緑高木である。花期は2、3月。径3cmほどの6枚の白い花弁を開き、^{ほうこう}芳香を発する。

今日では^{しんぜん}神前にはサカキを供えるのがふつうであるが、「オガタマ」とは^{しんれい}神霊を招くという意味であることから、古くは神に捧げる木としてオガタマノキと名付けられた。そのため昔から神社や庭園に植えられることが多い。また

^{み こ てっこう}巫女の手甲の鈴はこの木の実をかたどったとされている。

なお、オガタマノキの葉は^{ちよう}蝶のミカドアゲハの幼虫の餌になっている。

